

西埼玉臨床研修プログラム

西埼玉臨床研修プログラム

目次

- I プログラムの特色
- II プログラムの目標
 - 1. 行動の目標
 - 2. 経験の目標
- III 臨床研修分野及び期間
- IV 研修方式
- V 評価方法 到達度評価表は巻末に
- VI 臨床研修施設および責任者
- VII 指導体制
- VIII 研修医の募集人員ならびに募集および採用の方法
- IX 研修医の処遇に関する事項
- X プログラム概要
- XI 各研修施設の概要

(I) プログラムの特色

臨床的に基本的な知識、技能および態度を習得し、プライマリーケアに携わる医師、高度の専門性を有する医師のいずれを目指す者にも役立つプログラムである。

(II) 臨床研修の目標

行動の目標：医療人としての必要な基本的姿勢・態度を養う

(1) 患者と医師の関係

患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立するために

- 1) 患者および家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。
- 2) 医師と患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームドコンセントが実施できる。
- 3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。

(2) チーム医療

医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調するために

- 1) 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。
- 2) 上級および医療医師、他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。
- 3) 同僚および後輩へ教育的配慮ができる。
- 4) 患者の転入、転出にあたり情報を交換できる。
- 5) 関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。

(3) 問題対応能力

患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身につけるために、

- 1) 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる (EBM=Evidence Based Medicine)
- 2) 自己評価および第三者による評価をふまえた問題対応能力の改善ができる。
- 3) 臨床研修や治験に意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ
- 4) 自己管理能力を身につけ、生涯にわたり基本的診断能力の向上に努める。

(4) 安全管理

患者ならびに医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身につけ危機管理に参画するために、

- 1) 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実践できる。

- 2) 医療事故防止および事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。
- 3) 院内感染対策（Standard Precautions を含む）を理解し、実践できる。

(5) 医療面接

患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、

- 1) 医療面接におけるコミュニケーションのもつ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身につけ、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる。
- 2) 患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー）の聴取と記録ができる。
- 3) インフォームドコンセントのもとに、患者・家族への適切な指示、指導ができる。

(6) 症例呈示

チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例呈示と意見交換を行うために、

- 1) 症例呈示と討論ができる。
- 2) 臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加する。

(7) 診療計画

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価するために、

- 1) 診療計画（診断、治療、患者・家族への説明を含む）を作成できる。
- 2) 診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し活用できる。
- 3) 入退院の適応を判断できる（デイサージェーリー症例を含む）。
- 4) QOL（Quality of Life）を考慮にいれた総合的な管理計画（リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む）へ参画する。

(8) 医療の社会性

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会的に貢献するために、

- 1) 保険医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。
- 2) 医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる。
- 3) 医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。

経験の目標：基本的な診察法、経験すべき疾患等

(Ⅲ) 臨床研修分野及び期間

【内科】

国立病院機構西埼玉中央病院 24週

【救急部門】

国立病院機構災害医療センター 8週

【地域医療】

医療法人元気会わかさクリニック 4週

【外科】

国立病院機構西埼玉中央病院 4週

【小児科】

国立病院機構西埼玉中央病院 4週

【産婦人科】

国立病院機構西埼玉中央病院 4週

【精神科】

国立病院機構下総精神医療センター 4週

【麻酔科】

国立病院機構埼玉病院 4週

【選択科目】 ※44週のうち下記から選択

国立病院機構西埼玉中央病院 44週

国立病院機構東埼玉病院 8週

国立病院機構災害医療センター 16週

国立病院機構下総精神医療センター 4週

(Ⅳ) 研修方式

1. 研修期間は2年間とし、内科、救急部門、地域医療、外科、小児科、産婦人科、精神科、麻酔科を必修研修科、必修研修科以外に神経内科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、放射線科、整形外科、泌尿器科において研修することができる。
2. 研修医は定められた指導医の監督・指導のもとに主として入院患者の担当医として診療を行う。
3. 研修医は当直診療を行う。常勤当直医の指導のもとに入院患者及び救急患者の診療にあたる。
4. 各科で定められた症例検討会抄読会、医長回診等に参加するほか、病院全体の剖検、CPC、カンファレンスに積極的に参加する。
5. 担当した入院患者についての退院時総括を指導医に提出する。
6. 厚生労働省の到達目標で定められた必要とされる経験、レポート作成を行う。

(V) 評価方法

1. 各科責任者が評価する。
2. 各科責任者が行動の目標、経験の目標それぞれに作成されたチェックリストによりその達成度をチェックし、研修終了時に EPOC に入力して評価をする。
3. 研修医は、研修終了時に EPOC に入力し自己評価を行う。
4. 研修管理委員会は、提出された核評価表をもとに総括評価し、カリキュラム改善の参考とする。

(VI) 研修施設及び研修責任者

1. 基幹型臨床研修病院

国立病院機構西埼玉中央病院（責任者 橋本 浩一）

2. 協力型病院

国立病院機構埼玉病院（埼玉県和光市）

国立病院機構東埼玉病院（埼玉県蓮田市）

国立病院機構災害医療センター（東京都立川市）

国立病院機構下総精神医療センター（千葉県千葉市）

3. 研修協力施設

医療法人元気会わかさクリニック（埼玉県所沢市）

(VII) 指導体制

1. プログラム責任者

プログラム責任者は、2年間を通じて、個々の研修医の指導・管理を担当するとともに研修医の目標達成状況を適宜把握し、研修医が終了時までには到達目標をすべて達成できるよう調整を行うとともに、研修管理委員会にてその状況を報告する。

2. 指導医の役割

指導医は、担当する診療科での研修期間中、個々の研修医について診療行為も含めて指導を行い、適宜目標達成状況を把握する。

3. 研修管理委員会

研修管理委員会はプログラム責任者および指導医からの報告を受け、定めた研修目標の達成状況と勘案し、研修の修了認定を行う。病院長は、研修委員会の結果を受けて研修修了証を発行・授与する。

(Ⅷ) 研修医の募集人員ならびに募集および採用の方法

- 1) 募集定員：令和5年度採用 3名
- 2) 募集方法：当院HPにて
- 3) 採用方法：全国公募とする。
- 4) 採用：研修病院・研修プログラムと研修医組み合わせ決定制度
(マッチングシステム)による

(Ⅸ) 研修医の処遇に関する事項

- 1) 身分：非常勤職員
- 2) 給与：時給に基づいての支給とし、所定時間外、休日または深夜労働に対して支払われる割増賃金率は以下のとおりである。

超過勤務手当	125%
※ただし、常勤職員の勤務時間の範囲内は100%	
休日給	135%
夜勤手当	25%

(詳細は非常勤職員給与規定による。)尚、アルバイトにおいては禁止とする。
- 3) 勤務時間等：原則として午前8:30より午後17:15(休憩時間は1:00)までであるが、状況に応じて長時間を研修に当てるのが望ましい。休暇は年次休暇、産前産後休暇等がある。年次休暇はその年度の在職期間に応じて4～13日付与する。(詳細は、非常勤職員就業規則第39条～第47条の5、非常勤職員勤務時間管理等規程第20条～第32条による。)当直 指導医の当直に合わせる
- 4) 宿舎および研修医室：研修棟(別棟)に臨床研修医用宿舎あり(個室6室)
院内に研修医室を設置
- 5) 社会保険、労働保健：健康保険、厚生年金、雇用保険に加入する
- 6) 健康管理：1年に2回の健康診断を行う
- 7) 医師賠償責任保険：各個人で加入する
- 8) 外部の研修活動：指導医の指示のもとに学会、研究会へ参加することができる。
但し費用は個人負担とする

(X)プログラム概要

経験の目標

基本的な診察法、経験すべき疾患等

(1)基本的知識・技能

a.問診および診察法

一般目標 (G I O) : 卒前に取得した面接法と診察法をさらに発展させ、初期診察に必要な基本的診察法を身につける。

3段階評価 (自己評価)	A : できている	B : 自信がない	D : 経験がない
3段階評価 (指導医評価)	A : 平均レベルを上回っている	B : 平均的レベルに達成している	C : 平均的レベルを下回っている

行動目標 (S B O)

1. 病歴を正確にとり記録ができる。
2. 全身の診断を正確、かつ要領よく行える。
3. 完全な病歴の聴取と身体的問診によって一時的な精神障害を二次的におこった精神障害から区別できる。
4. 眼底の重大な所見を記述できる。
5. 外耳道、鼓膜、鼻腔、咽頭、喉頭の異常を記述することができる。
6. 直腸診で大きな異常を見つけられる。
7. 男・女性器の異常を指摘できる。
8. 妊婦の初期徴候を把握できる。
9. 皮膚の所見を記述できる。
10. 骨折、脱臼、捻挫の診断ができる。

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

学習方略 (L S)

(例) 入院患者の診察の場において、研修医、指導医同時に病歴、理学的所見を採取し対比する。

b. 基本的臨床検査法

一般目標 (G I O)

基本的な臨床検査法の選択、結果を解釈でき、緊急検査を実施できるようになる。

行動目標 (S B O)

1. 尿の肉眼的、化学的、顕微鏡検査を行い結果の意義を解釈できる。
2. 便の肉眼的検査と潜血反応を実施し、解釈することができる。
3. 血液一般検査と白血球百分率監査を実施し異常な細胞については指導医に相談する。
4. 出血時間の測定を行い、血液凝固機能に関する検査を指示し、結果を解釈できる。
結果を判定し、止血機能に関する検査を指示できる。

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

5. 血中尿素と血糖の簡易検査を実施、その結果を解釈することができる。

6. 血清生化学的検査を適切に指示し、その結果を解釈できる。

7. 血液ガス分析を行い結果を解釈できる。

8. 血清免疫学的検査を適切に指示し、重要な異常を指摘できる。

9. 内分泌学的検査を適切に指示し、その結果を解釈できる。

10. 細菌塗抹標本を観察し起炎菌のおおまかな推定ができる。培養および薬剤感受性試験の結果を解釈することができる。

11. 腰椎穿刺を行い、髄液検査を指示し結果を解釈することができる。

12. 心電図をとり、その主要変化を解釈することができる。

13. 肺機能検査指示を行い、主要な変化を指摘できる。

14. 脳波上の主要の異常波を指示できる。

15. 腎機能検査の主なものを指示し、成績を解釈できる。

16. 超音波検査の指示を行い、主要な変化を指摘できる。

17. 骨髄穿刺を行い各種染織を指示し、主要な変化を指摘できる。

ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

学習方法 (LS)

(例) はじめの1カ月、全患者の入院時に実施し結果を指導医とともに評価する。

c. X線検査法

一般目標 (GIO)

基本的なX線検査法を指示し、読影力を身につける。

行動目標 (SBO)

1. X線障害の予防を配慮して胸部・頭蓋・脊椎・四肢骨の単純X線撮影を指示し、結果を指導医に連絡する。
2. 消化管・肺・脳・腎の造影法(血管撮影を含む)によるX線像の主な異常を指摘できる。
3. 頭部・頸部・体幹のCTスキャン像の主要変化を指摘できる。

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

学習攻略 (LS)

(例) 単純X線写真は撮影の都度指導医とともに読影する。定期的に指導医を交えてフィルムカンファレンスを行う。

d. 核医学検査法

一般目的 (GIO)

基本的核化学的検査法を指示しその結果分析する能力を身につける。

行動目標 (SBO)

1. 繁用される核物質を列挙することができる。
2. 各種核医学検査の適応を述べ、指示できる。
3. 各種核医学画像の大きな変化を指摘し、分析できる。

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

学習方略 (LS)

(例) 同上

e. 滅菌・消毒法

一般目標 (GIO)

無菌的処置の際に必要な各種の滅菌、消毒法についての知識と技術を身につける。

行動目標 (SBO)

1. 手術・観血的検査・創傷の治療などの無菌的処置の際に用いる器具や諸材料の滅菌法を述べることができる。
2. 滅菌手術着や手袋の着用ができ、手指を適切に消毒することができる。
3. 手術の述前の清拭や剃毛の指示と確認及び消毒を行うことができる。

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

f. 採血法

一般目標 (GIO)

臨床検査及び輸血のための血液を採取する能力を身につける

行動目標 (SBO)

1. 目的とする臨床検査の種類に応じて注射器や容器の準備を指示し、確認できる。
2. 臨床検査に必要な採血量をあらかじめ定めることができる。
3. 静脈血を正しく採血できる。
4. 動脈血を正しく採血できる。
5. 採血した血液の検査前の処理を適切に行うことができる。
6. 供血用血液を採取するさいの諸注意を守り、正しく採血できる。

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

学習方略 (LS)

(例) 受持患者の採血を慣れるまで担当医自身で行うようにする。

g. 注射法

一般目標 (GIO)

各注射法の適応についての知識と、正しい注射法の技術を身につける。

行動目標 (SBO)

1. 注射によって起こりうる障害を例記し、その予防策と治療策を講じることができる。

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	

2. 血液型検査の指示と解釈が適切にでき、クロスマッチの方法を正確に理解し、結果を解釈できる。
3. 輸血量と速度を決定できる。
4. 輸血による副作用と事故を例記でき、その予防・診断・治療法を実施できる。
5. 輸血を正しく実施できる。すなわち水・電解質代謝の基本理論、輸液の種類と適応をあげ、輸液する薬液とを決定できる。その量を決定できる。
6. 輸液によって起こりうる障害をあげ、その予防・診断・治療ができる。
7. 経静脈栄養の適応を述べることができ、正しく実施できる。

ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

学習方略 (L S)

(例) 輸血・輸液の理論と実施について十分な指導を行う。

h. 穿刺法

一般目標 (G I O)

診断または治療に必要な体腔などの穿刺法についての正しい知識と技術を身につける。

行動目標 (S B O)

1. 腰椎・胸腔・腹腔・骨髄の各穿刺法の目的、適応、禁忌、実施方法、使用器具、実施上の注意、起こりうる障害とその処置について説明ができ、実施できる。
2. 内圧測定、採液、排液、脱気、薬剤注入など各目的に応じて適切な器具と方法を選択できる。
3. 採取した液についての適切な検査を指示し、その成績を解釈できる。

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

学習方略 (L S)

(例) 局所解剖や病態生理を正確に理解する。

i. 導尿法

一般目標 (G I O)

確実な導尿ができる知識と技能を身につける

行動目標 (S B O)

1. 導尿に関連する障害を列挙し、その予防策を講じることができる。
2. 持続的導尿の管理ができ、中止する条件を述べることができる。
3. 膀胱穿刺の必要な条件と実施方法を述べるができる。

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

学習方略 (L S)

(例) カテーテルの種類、適応及び上記について泌尿器科医の指導を受ける。

j. 処方

一般目標 (G I O)

一般的な薬剤についての知識と処方の仕方を身につける。

行動目標 (S B O)

1. 一般的経口および注射薬剤の適応、禁忌、使用量、副作用、配合禁忌、使用上の注意をあげ、処方できる。

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	

- 薬物療法の成果を評価することができる。
- 麻薬の取扱い上の注意を述べ、正しく処方し適切に処理できる。

ABD	ABC	
ABD	ABC	

学習方略 (LS)

(例) 薬物療法、常用薬剤のマニュアルを指導医・研修医で作成するのが望ましい。

k. 簡単な局部麻酔と外科手技

一般目標 (GIO)

簡単な基本的局所麻酔と外科手技を身につける。

行動目標 (SBO)

- 常用される外科器具 (メス、剪刀、鉗子、鉤、縫合針、縫合糸など) の操作ができる。
- 上記の外科器具を適切に選択できる。
- 局所浸潤麻酔とそ副作用に対する処置が行える。
- 簡単な創面の止血 (圧迫、圧座、結紮、縫合) が行える。
- 単純な皮下腫瘍の切開や排瘍ができる。

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

i. 術前術後の管理

一般目標 (GIO)

手術前の患者の基礎的管理能力を身につける。

行動目標 (SBO)

- 手術の適応に必要な既往歴の問診を行い、術前の検査を指示し、結果を判断できる。
- 手術予定者の不安に心理的配慮を行い、術前の処理を指示できる。
- 術後起こりうる合併症および異常に対して基礎的な対処ができる。

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

m. 救急対処法

一般目標 (GIO)

救急に対するために救急諸症の諸原因を再認識し与えられた状況下でもっとも適切な処置を講じる能力を身につける。

行動目標 (SBO)

- バイタルサイン (意識、体温、呼吸、循環動態、尿量など) のチェックができる。
- 髄膜刺激症状の有無を知ることができる。
- 発症前後の状況の把握は本人だけでなく、家族、同僚、付添人などからも十分に収集することができる。
- 人工呼吸 (用手、ロー口、アンビュー) および胸骨圧迫式心マッサージができる。
- 静脈の確保ができる。

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

6. 気管内挿管ができる。
7. 気管切開の適応を述べることができる。
8. レスビレータを装着し、調節できる。
9. 直流除細動の適応をあげ、実施できる。
10. 必要な薬剤（速効性強心薬、利尿薬など）を適切に使用できる。
11. 大量出血の一般的対策を講じることができる。
12. 創傷の基本的処置（止血、感染防止、副木など）がとれる。
13. 中心静脈圧の測定ができる。
14. 初期治療を継続しながら適切な専門医に連絡する状況判断ができる。
15. 重症患者の転送に当たって、主要な注意を指示できる。
16. 採血して血液ガス分析を行い、結果を解釈できる。
17. 緊急手術を要する場合、術前の最小限の検査および処置を行い、専門の医師に転送できる。

ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

学習方略（LS）

（例）各科指導医により、手技を学ぶ。

II. 末期患者の管理

一般目標（GIO）

全人間的観点から末期患者の適切な医学的管理を行う能力を身につける。

行動目標（SBO）

1. 末期患者の病態生理と心理状態とその変化を述べるができる。
2. 末期患者の病態生理と身体的だけでなく、心理的社会的な理解の上で立って行える。
3. 末期患者とその家族の間の社会的関係を理解し、それに対して配慮できる。
4. 死後の法的処置を確実に行える。

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

小児に関する基本的臨床研修目標

a. 面接、指導

一般目標（GIO）

小児ことに乳幼児への接触、親（保護者）から診断に必要な情報を的確に聴取する方法および指導法を身につける。

3段階評価（自己評価） A：できている B：自信がない D：経験がない
 3段階評価（指導医評価） A：平均的レベルを上回っている。
 B：平均レベルに達している。
 C：平均レベルを下回っている

行動目標 (SBO)

1. 小児ことに乳幼児に不安をあたえないように接することができる。
2. 親（保護者）から、発病の状況、心配となる症状、患児の成育歴、既往歴、予防接種などを要領よく聴取できる。
3. 親（保護者）に対して、指導医とともに適切に病状を説明し、療養の指示ができる。

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	
ABC	ABD	
ABC	ABD	

b. 診察

一般目標 (GIO)

1. 小児の正常な身体発育、生活状況を理解し判断できる。
2. 小児の年齢差による特徴を理解できる。
3. 視診による、顔貌と栄養状態を判断し、発疹、咳、呼吸困難、チアノーゼ、脱水症の有無を確認できる。
4. 乳幼児の咽頭の視診ができる。
5. 発疹のある患者では、発疹の所見を述べることができ日常遭遇することの多い疾患（麻疹、風疹、突発性発疹症、溶連菌感染症など）の鑑別を説明できる。
6. 下痢患児では、便の症状（粘液、血液、膿等）を説明できる。
7. 嘔吐や腹痛のある患児では重大な腹部所見を説明できる。
8. 咳をする患児では、咳の出かたと呼吸困難の有無を説明できる。
9. 痙攣や意識障害のある患児では、髄膜刺激症状を調べることができる。
10. 新生児の正確な身体的診察ができる。

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

c. 手技

一般目標 (GIO)

小児ことに乳幼児の検査および治療の基本的な知識と手技を身につける。

行動目標 (SBO)

1. 単独または指導者のもとで採血できる。
2. 皮下注射ができる。
3. 指導者のもとで新生児、乳幼児の筋肉注射、静脈注射ができる。

自己指導	指導医評価	指導医印
ABD	ABC	
ABD	ABC	
ABD	ABC	

産婦人科（救急）の研修目標

a. 産科領域の救急

一般目標 (GIO)

正常分娩を含む妊娠、分娩、産褥に関する救急患者を診察し、専門の産科医に移管する

必要性および時期を判断できるとともに、それまでの応急処置を行う技術を身につける。

3段階評価(自己評価)A:できている B:自信がない D:経験がない
3段階評価(指導医評価)A:平均レベルを上回っている
B:平均レベルに達している
C:平均レベルを下回っている

行動目標(SBO)

1. 産科救急患者または家族などに面接し、診断に必要な情報を聴取し、記録できる。
2. 産科的一般診察を行い、その結果を解釈できる。
3. 流早産の応急処置ができる。
4. 正常分娩の介助(会陰側切開を含む)ができる。
5. 分娩直後の新生児の処置ができる。
6. 妊、産、褥婦の出血に対する応急処置ができる。

自己指導	指導医評価	指導医印
A B D	A B C	
A B D	A B C	
A B D	A B C	
A B D	A B C	
A B D	A B C	
A B D	A B C	

b.婦人科領域の救急

一般目標(GIO)

婦人科の救急患者を診察し、適切な初期診断を行う積極性と能力を獲得し専門の産婦人科医に移管するまでの応急処置を行う技術を身につける。

行動目標(SBO)

1. 婦人科救急患者または家族などに問診し、診断に必要な情報を聴取し記録する。
2. 婦人科的一般的診察を行い、その結果を解釈できる
3. 性器出血の応急処置ができる。
4. 腹腔内出血の有無を早急、正確に判断できる。
5. 骨盤内腫瘍、捻捻転および破裂を他の急性腹症とある程度識別し救急手術の必要性を判断し、専門の婦人科医師に送ることができる。

自己指導	指導医評価	指導医印
A B D	A B C	
A B D	A B C	
A B D	A B C	
A B D	A B C	
A B D	A B C	

(4) 地域保健・医療研修の目標

a.地域の保健に関すること

一般目標(GIO)

地域社会の多様なニーズに応え、全人的医療を行うために、社会医学的視点を踏まえた実践的診療能力を身につける。

行動目標(SBO)

1. 地域の保健福祉行政の概要を述べることができる。
2. 地域の疫学的特性を具体的に述べるができる。
3. 地域の医療機関における医療の受給状況を具体的に述べるができる。
4. 医療チームの構成員としての役割を理解し、地域実地医家や関係医療機関、諸団体の担当者と連携し、コミュニケーションが取れる。
5. 診療所での医療の実施からプライマリーケアに必要な知識や手技、医師・患者関係の継続について理解して診療に当たることができる。

A-B-C
A-B-C
A-B-C
A-B-C
A-B-C

- | | |
|--|-----------|
| 6. 地域の習慣・文化に配慮して患者と良好にコミュニケーションすることができる。 | A - B - C |
| 7. 患者の家庭・職場環境に配慮して在宅医療を行うことができる。 | A - B - C |
| 8. 診療情報提供書を適切に提供することができる。 | A - B - C |
| 9. 介護保険の概要について述べるることができる。 | A - B - C |
| 10. 介護認定のための主治医意見書を作成することができる。 | A - B - C |

b. 特定の医療現場の経験

一般目標 (G I O)

各現場における到達目標の項目のうち一つ以上を経験し、地域保健・医療を必要とする患者と その家族に対して、全人的に対応する。

行動目標 (S B O)

- | | |
|--|-----------|
| 1. 保健所の役割（地域医療・健康増進への理解を含む）について理解し、実践する。 | A - B - C |
| 2. 社会福祉施設等の役割について理解し実践する。 | A - B - C |
| 3. 診療所の役割（病診連携への理解を含む）について理解し、実践する。 | A - B - C |
| 4. 僻地・離島医療について理解し、実践する。 | A - B - C |

必須項目 保健所、診療所、社会福祉施設、介護老人保健施設、僻地・離島診療所等の地域保健・医療現場を経験すること

(XI) 各研修施設の概要

	病院名	住所	研修分野	診療科
基幹型臨床研修病院	国立病院機構西埼玉中央病院	埼玉県所沢市若狭2丁目1671	内科	
			産婦人科	
			外科	
			小児科	
			選択科目	内科
				産婦人科
				外科
				小児科
				放射線科
				整形外科
泌尿器科				
麻酔科				
耳鼻咽喉科				
協力型臨床研修病院	国立病院機構東埼玉病院	埼玉県蓮田市大字黒浜4147	選択科目	神経内科
	国立病院機構埼玉病院	埼玉県和光市諏訪2-1	麻酔科	
	国立病院機構下総精神医療センター	千葉県千葉市緑区辺田町578	精神科	
	国立病院機構災害医療センター	東京都立川市緑町3256	救急	
選択科目			呼吸器内科	
			神経内科	
		救急		
			放射線科	
臨床研修協力施設	医療法人元氣会 わかさクリニック	所沢市西狭山ヶ丘1-2475-1オレンジタウン内2F	地域医療	一般外来
				在宅診療